

令和 3 年 11 月 19 日

令和 3 年度第 5 回政策討論会第二分科会要点記録

○令和 3 年 11 月 19 日（金）10：00～10:48

出席者：中井（座長）、宇野（副座長・記）、反甫、桑原、京西、松本、岡林、雪本

●目的：今後の岸和田市での文化財行政の課題解決・あるべき姿について討論する

●京西議員、雪本議員から資料の提出を受け、説明を受けた。

・課題の解決にむけた取組みとして次の 4 項目を提案する。

①岸和田市文化財保存活用地域計画の策定について

次期総合計画に文化財保護を明確に位置付ける。指定文化財及び文化財予備群を調査し、地域計画に反映させる。

②建物係文化財及び文化財予備群の個別保存計画について

経年劣化、災害被害による保存修理計画をつくる（民間所有含む）。

③文化財の公開や活用による市民との課題共有について

教育活動や集客イベントを積極的に行う。

④上記に係る財源と人材の確保について

文化財保護計画に係る予算化に向けた施策を立案する。

文化財保護基金の積立財源を拡大・拡充する。

特に、基本となる「岸和田市文化財保存活用地域計画」を策定するための準備作業に着手すべきと考える。予算の獲得には事業計画を

持つこと、そして文化財等を所有する方の理解と協力、市民と議会の認識を共有することです。

併せて、岸和田城 400 年祭（昭和 63 年 4 月 2 日～11 月 6 日）の記念誌に「八陣の庭 撤去して」「八陣の庭ピンチ 移転、縮小迫られる」と当時の新聞記事が載っていることから、本市の文化財行政を明確に示す計画が必要である。

- ・ 2001 年設立の文化財保存支援機構、大阪府文化財センターと本市との関わりが殆ど無い。人材や財源について利用できるものを活用すべき。本市は来年度 100 周年を迎えるので、文化財の分野でも PR をすべき。市役所の庁内でも連携を進めていくべき。

- ・ 一番の問題は財源だと思う。五風荘のやり方のようなことを他でも考えていかないといけない。結果的に五風荘は市民からも知名度がある。

- ・ 何のために何をするのか、まず計画を立てるのが基本。100 周年に向けて、集客イベントが大事で、人に寄ってもらって、見てもらって、興味を持ってもらう事が大事。費用はかかるが SNS の活用なども大事。今まで、行事の度に作ってきたパンフレットなどの活用も大事。

- ・ 大阪府文化財保存活用大綱の中に、「地域住民や民間団体等の幅広い担い手の確保に努めることも重要である」とある。本市では、市民センター等で市の担当課だけでなく、市民グループ等が展示をしていることがあるが、あまり知られていないように思う。担当課が積極的に PR すると共に、市民が所有している文化財や情報もあるはずである。市民グループ等との連携強化が必要だと考える。

・文化庁の文化財保護法に基づく文化財保存活用大綱・文化財保存活用地域計画・保存活用計画の策定等に関する指針【概要】と、大阪府文化財保存活用大綱(抜粋)の資料を配布し、本市の今後の方向性について述べる。まず取り組むことは、岸和田市文化財保存活用地域計画を策定することである。文化庁から地域計画の認定を受けると、国や大阪府から指導・助言や経費の補助を受けることが出来る。なお、地域計画を策定する際には、東京都台東区にある、たいとう歴史都市研究会のような民間団体や学識経験者・文化財専門家・行政が参加する協議会を設置することが望ましい。現状の郷土文化課の人員では、地域計画の策定に支障をきたすと考えられる。人材の複数人の確保が急がれる。

●次回の開催は、12月22日(水) 10時から
引き続き、今後の岸和田市での文化財行政の課題解決・あるべき姿について討論する。